



東北関東大震災—御見舞申し上げます。福島へ行ってきました。

3月11日午後、東北地方を中心に巨大地震が発生しました。新潟も相当揺れて、私も強い不安と恐怖を感じましたが、被災地では甚大な被害が発生しています。現地に御家族・御親戚・御友人のいらっしゃる方々の御心配を心よりお察しします。また、被災された方々にあらためて御見舞申し上げます。

私も当日は実態がよく分からないまま通常の活動を続けておりましたが、次第に実態が明らかになり、中断。そして翌12日、連絡が取りにくくなっているスタッフの実家がある郡山といわきなどに向け、仲間とともに救援物資を車に乗せて現地に行ってきました。



↑地震と津波の爪あと（3/12小名浜）

現地では、倒壊した家屋や壁、津波の爪あとを目の当たりにしました。港町の小名浜では、高台にあるお寺の避難所を訪問、皆さんのお話を聞くとともに、食糧や水（断水のため不便しているとの事）など救援物資をお渡しすることができました。皆さんはまだショックからさめやらない様子でしたが、喜んでいただき、私たちも少しばかり役立つことができました。

各地の避難所で不足している物資があります。津波から逃げた人たちは、濡れたままで着替えもないと聞きました。ライフラインも寸断され、食糧、水、暖房、カセットコンロ、着替えなど、現地の状況をつかみながら、これまでの震災で重ねられた経験や教訓も活かした支援が重要になります。私も自分の技能を活かし、以前の震災と同様、必要があれば医療ボランティアにも関わりたいと思っています。

新潟市からも、消防や医療スタッフの派遣、市営住宅空き部屋の提供も準備されています。また、市内には空き家も各所に見られますが、なんとかこれらを活用する方策も望まれます。市内の官民の入浴場などの活用も検討されるべきと思います。

「震災に強い街」を目指している新潟市でも、災害対策の強化はもちろんですが、それだけでなく、日常から高齢者や弱者を支える仕組みの強化も重要です。災害時の医療サービスも、自分自身が関わった経験から、実は日常的な地域医療のあり方を見直すきっかけにもなります。必要な人に必要なものを確実に届ける—被災地で求められている仕組みは、福祉や医療など、「平時」においても「政治」が果たすべき役割にも通じます。その意味でも、天災は避け難いものですが、だからこそ、平時から「心豊かに安心して暮らせる社会」に向けて、新潟の市政と議会を建て直すことが重要だと確信します。



↑避難所に食糧・水など差し入れ

福島原発は、今もなお制御不能な状態が続き、チェルノブイリに次ぐ深刻な事態になっています。私は学生時代から原発建設に反対する市民運動に関わり、一方、放射線医学の専門家のひとりでもあります。右肩あがりの経済発展を期待して、大量のエネルギーを首都圏で消費するため「地震列島日本」の危険性を無視して首都圏以外の地域で強権的に建設が進められてきた原子力行政の根本的な転換が必要であることを、市民活動家として、医療人として、あらためて訴えたいと思います。

被災地支援の募金は下記へ

●日本赤十字社口座番号 00140-8-507「東北関東大震災義援金」

●NGO サポート募金(現地で活動するNGOに分配されます) <http://www.janic.org/bokin/matomete14.php>